

# 栗原桂一・春江夫妻の採集品に基づくコメツキムシ類の記録 (2) \*

## — 石垣島・西表島 —

大平仁夫

〒444-3511 岡崎市舞木町狐山6-4

Some elaterid beetles collected by Mr. and Mrs. Kurihara in Yaeyama Islands of the Ryukyu Islands, Japan (2) — Ishigaki and Iriomote Isles —

Hitoo ÔHIRA

本稿では、石垣島（石垣市）と西表島（竹富町）において、2011年4月に栗原桂一・春江夫妻が採集された10種のコメツキムシを記録する。記録した種はいずれもこの地域からすでに知られているが、採集記録の少ない種が含まれているので、この報告がこの地域の分布知見の充実に多少でも役立てば幸いである。

本文を草するにあたり、資料の提供を頂いた栗原ご夫妻に心から感謝の意を表す。なお、ここに記録した標本は筆者が保管している。

### 種の記録

#### 1. ヤエヤマサビコメツキ *Lacon (Alaotypus) yayeyamanus* (Miwa, 1934)

標本：1♀, 竹富町船浦, 16. IV. 2011, 栗原桂一採集。

Miwa (1934) が石垣島産の個体に基づいて新種として記載した種である。現在では琉球列島の各地に広く分布することが判明しており、北限は鹿児島県の内陸部（佐多岬、城山）であったが、最近ではより北部地域まで伸びているといわれている（岸井, 2009）。琉球列島産の成虫の形態は大平 (1996) が報告しており、幼虫も判明している。

分布：九州（鹿児島県）、琉球列島（与那国島まで）。

#### 2. サキシマシロモンサビキコリ *Agrypnus (Agrypnus) scutellaris hamai* Ôhira, 1967

標本：1♂, 石垣市屋良部林道, 19. IV. 2011, 栗原桂一採集。

原名亜種はトカラ列島（口之島、悪石島、宝島）から奄美～沖縄諸島にかけて広く分布している。また、八丈島からも記録がある。上記の亜種は八重山諸島に分布し、与那国島に達している。

幼虫は土壤中に生息しているので、苗木や農作物などの移動によって人為的に分布が拡大している。

分布：八重山諸島（多良間島、石垣島、小浜島、西表島、黒島、与那国島）。

#### 3. サキシマムナビロサビキコリ *Agrypnus (Agrypnus) sakishimanus sakishimanus* Ôhira, 1967 (図1A)

標本：1♂, 竹富町船浦, 16. IV. 2011, 栗原桂一採集；1♀, 竹富町祖内岳, 17. IV. 2011, 栗原桂一採集。

本種は中国大陸に分布する *A. bipapulatus* の亜種とされていたが、Ôhira (1967) は別種とし、成虫の形態は大平 (2002) が報告している。

分布：八重山諸島（石垣島、西表島、黒島、与那国島）。

#### 4. リュウキュウホソサビキコリ *Agrypnus (Sabikikorius) ryukyuensis* Kishii, 1985 (図1B)

標本：1♀, 石垣市屋良部林道, 19. IV. 1985, 栗原桂一採集。

成虫の形態は大平 (2003) が報告しているが、石垣島、西表島と黒島から知られている。外形はホソサビキコリ (*A. fuliginosis*) に類似しているが、前胸腹側板と後胸腹板上には、前肢と中肢の跗節を受け入れる深い凹溝を有する。

分布：八重山諸島（石垣島、西表島、黒島）。

#### 5. ヨナグニチビコメツキ *Babdrasterius urabensis* Ôhira, 1994

標本：1♀, 竹富町船浦, 16. IV. 2011, 栗原桂一採集。

与那国島産の個体に基づいて大平 (1994) が新属新種として記載した種である。現在では沖永良部島を北限に、琉球列島の島嶼に広く分布している。一般に海浜周辺の草地帯や荒れ地に分布しており、灯火にもよく飛来する。

分布：琉球列島（沖永良部島～与那国島）。

#### 6. サキシマクチボソコメツキ *Glyphonyx pallidus* Miwa, 1934

標本：4 exs., 竹富町祖内岳, 15-IV-2011, 栗原桂一

\* (1) : New Entomol., 60 (1, 2): 25-28, 2011.

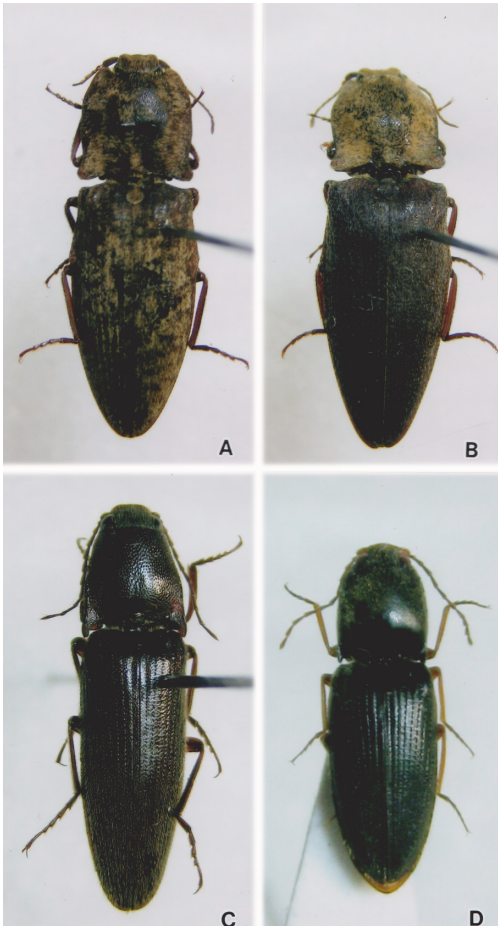


図1. A, サキシマナビロサビキコリ♂, 体長18 mm; B, リュウキュウホソサビキコリ♀, 20 mm; C, サキシマカンシャクシコメツキ, 16 mm; D, タムラハナコメツキ♂, 7.5 mm.

採集; 2 exs., 竹富町船浦, 16. IV. 2011, 栗原桂一採集.  
6 exs., 石垣市屋良部林道, 18. IV. 2011, 栗原桂一採集.

体長は 3.5 mm 内外で黒色, 淡黄褐色毛を生じ, 触角と肢は黄褐色である. 成虫は 3 月から 5 月に山林の花上で見出される普通の種である. 成虫の形態は大平 (1998a) が報告している.

分布: 八重山諸島 (石垣島, 西表島).

#### 7. サキシマカンシャクシコメツキ *Melanotus (Melanotus) sakishimensis* Ôhira, 1982 (図1C)

標本: 1♀, 石垣市屋良部林道, 13. IV. 2011, 栗原桂一採集.

八重山諸島での本種の幼虫は, 奄美諸島や沖縄諸島に分布する類似種と共に, 幼虫が甘蔗の根茎を加害する害虫として知られている.

分布: 琉球列島 (宮古島~与那国島).

#### 8. ヤエヤマクシコメツキ *Melanotus (Melanotus)*

*yeyamacola* Kishii, 1974

標本: 1♂, 石垣市大嵩, 13. IV. 2011, 栗原桂一採集.

体長は 14 ~ 16 mm で暗褐色. 宮古島から与那国島にかけて分布しており, 幼虫は畑地の土壤中において根菜類や甘蔗などの根茎を加害することを大平 (1998b) が報告している.

分布: 琉球列島 (宮古島~与那国島).

#### 9. ツマグロハナコメツキ *Allocardiophorus nigroapicalis nigroapicalis* (Miwa, 1927)

標本: 1♂, 竹富町南風見田, 15. IV. 2011, 栗原春江採集.

体長は 8 ~ 10 mm 内外. 上翅の前半が黄橙色をした種で, 成虫の形態は大平 (1989) が報告している. 琉球列島では与論島以西の島嶼から知られており, 台湾産は別亜種とされている. 主として海岸沿いの草地の砂地帯に分布しており, 灯火にも飛来する.

分布: 琉球列島 (与論島, 宮古島, 伊良部島, 石垣島, 竹富島, 西表島, 黒島).

#### 10. タムラヒメハナコメツキ *Displatynychus tamurai* Kishii, 1974 (図1D)

標本: 1♂, 石垣市屋良部林道, 13. IV. 2011, 栗原桂一採集.

奄美諸島から八重山諸島にかけての琉球列島に分布しており, ときに集団で発生する. 成虫の形態は大平 (1999) が報告している.

分布: 琉球列島 (奄美諸島~八重山諸島).

#### 引用文献

- 岸井 尚, 2009. 三重県のコメツキムシ(9). ねじればね, (124): 7-12.
- Miwa, Y., 1934. The fauna of Elateridae in the Japanese Empire. Dept. Agr., Gov. Res. Inst. Formosa, (65): 1-289, 9 pls.
- Ôhira, H., 1967. The Elateridae of the Ryukyu Archipelago, I. (Coleoptera). Trans. Shikoku ent. Soc., 9(3): 95-106.
- 大平仁夫, 1989. 日本産ハナコメツキ亜科の 1 新属の記載. 昆虫学評論, 44 (2): 79-80, 1 pl.
- 大平仁夫, 1994. 日本産チビコメツキ亜科の属・種について. 越佐昆虫同好会特別報告, (2): 217-234.
- 大平仁夫, 1996. 九州に産するコメツキムシ科の珍種 (57). 北九州の昆虫, 43 (2): 75-76, 1 pl.
- 大平仁夫, 1998a. 九州に産するコメツキムシ科の珍種 (64). 北九州の昆虫, 45 (1): 9-10, 1 pl.
- 大平仁夫, 1998b. ヤエヤマクシコメツキの幼虫. 月刊むし, (334): 19.
- 大平仁夫, 1999. 日本産ヒメハナコメツキ属の種について. 比和科学博物館研究報告, (38): 357-362, 2 pls.
- 大平仁夫, 2002. 日本産サビキコリ属の形態について (I). (甲虫目: コメツキムシ科, サビキコリ亜科, サビキコリ属).

比和科学博物館研究報告, (41): 53-67, 10 pls.  
 大平仁夫, 2003. 日本産サビキコリ属の形態について (II). (甲  
 虫目: コメツキムシ科, サビキコリ亜科, ホソサビキコ

り属). 比和科学博物館研究報告, (42): 31-43, 7 pls.

(2011年10月18日受領, 2011年11月17日受理)



青木淳一 (著)  
 「むし学」

東海大学出版会

2011年9月20日発行 210 pp. 2,800円

2009年に東海大学出版会から発行された「ホソカタムシの誘惑—日本産ホソカタムシ全種の図説—」で、日本中の甲虫屋を唸らせた青木淳一さんによって本年9月に同出版会から「むし学」の著書が上梓された。この著書は「まえがき」に書かれているように「むし」といっても昆虫だけを対象としているのではなく、同じ節足動物門に含まれるクモ、ダニ、ワラジムシ、ダンゴムシ、ムカデおよびヤスデなど、昔から「むし」と呼ばれてきた身近な生き物が含まれている。

まず、巻頭の美しいカラー印刷による1から16の口絵を通して多様な虫達を紹介することで、読者の関心を引き付け、続いて第1章から第7章にわたる本文で、これらの虫達との付き合い方が多岐にわたって記述されている。それらの内容を紹介すれば、下記の通りである。

第1章 虫入門, 第2章 虫の生態, 第3章 人間と虫, 第4章 昆虫採集, 第5章 虫学者になるための心得, 第6章 虫学者列伝, 第7章 海外虫紀行。

上記の第1章では、虫に関する名前や形態に関する最も基礎的な事柄が解説されている。この中で、以前は虫の名が漢字でも表記されていたが、それにちなんで出題された「34の漢字名テスト」はなかなかの難問で、著者の遊び心が感じられる。私もかつて「豆娘」と記された虫の名前が、思いもよらない虫と知り驚いたことを思い出した。第3章は、虫の生態に関して大変わかりやすい解説で読者の興味心をかき立たせるのに十分な内容となっている。第3章以降は、前章までの解説的内容ばかりでなく、多分にエッセイ的な味付けがなされた構成で、第3章では従来あまり関心が持たれてこなかった都会に生息している虫達を紹介

すると共に、ヒートアイランド現象との関連性を指摘している。第4章の昆虫採集と標本の作り方では、懇切丁寧な説明が初心者にとってはたいへん有益な指針となっている。なお、この章の「子供の虫採り」の項で、子供

の昆虫採集に否定的な社会の風潮に対してこれを強く批判している姿勢に著者の強い思い入れが感じられる。第5章では、虫学者になるための条件や研究方法について著者の考えが記述され、学会や同好会への加入を勧めると共に、全国的な学会と地域の研究会・同好会および発行機関紙が紹介され、著者らしい細やかな心配りがなされている。第6章および第7章は、著者の楽しく懐かしい思い出を記述しており、第6章では親しく交友された11人の物故虫学者の主な業績と共に、これまで知られていないエピソードなどを交えながら、それぞれの人となり伝える楽しい読物となっている。第7章では、ハワイのビショップ博物館での研究生活が紹介され、また、アジアの5地域(ボルネオ・台湾・中国雲南・タイ・ニューギニア)での採集紀行が楽しく記述されている。これら虫屋達の垂涎の地域での採集活動や、それに伴って観察された様々な虫達の行動や生態が魅力的に書かれ、読者の胸をときめかせるのに十分である。

以上が、この著書の内容であるが、著者の肩肘張らない平明な文章は楽しみながら読み進めることができ、特に第1章から第4章までの内容は、これから虫の世界を探求しようとする人ばかりでなく、これまで虫と不縁だった人達にも虫の世界に関心を抱かせるような入門書として啓蒙的な役割を果たしている。このため、これらの人達にもぜひ一読を薦めたい。

(東京都町田市 渡辺泰明)

